

ハマフエフキの種苗生産

藤本裕・久保弘文・仲村伸次・大城竹広*

1. 方法

親魚は、前年度より引き続き養成を行っていた大ケル⁷ (前年度購入した天然魚 約4Kg 26尾) と小ケル⁷ (約2.5Kg 21尾) である。

餌料はワムシ→配合飼料を原則とした。ワムシはタイ産ワムシあるいはS型ワムシでスタートし、以後はS型、L型ワムシを投与した。飼育後期の2区だけはアルテミアを投与した。栄養強化は、タイ産はナンノを使用し、それ以外はアルテミアも含めてドコサユグレナを使用した。配合飼料は日令20日、全長6mmをめどに投与を開始した。

通気及び注水についてはほぼ前年度同様である。

2. 結果

採卵は、小ケル⁷が4月27日、大ケル⁷が4月28日にスタートし、7月上旬の白点虫発症まで行った。産卵はほぼ順調で、小ケル⁷の総浮上卵数は約7千9百万粒、

浮上卵率88%、大ケル⁷は4千5百万粒、92%であった。

種苗生産結果を表1に示した。7回次の生産を行い、途中廃棄は無かったものの、生産数は前年度に比べ約78%の28万尾であった。

減耗については、飼育当初はタイ産ワムシを投与することによって以前に比べ大幅に改良されたがまだマダイのレベルに達していないこと、及び前年度の結果から配合飼料の投与を多めにしたにもかかわらず飼育後半の共食いが激しかったことが主な原因と考えられた。

生産回次1～5は、低コスト化、省力化を進めるためマダイの種苗生産同様アルテミア投与を省いたが共食い等により、生残率が前年度より低下したため、6、7回次は、従来どうりアルテミアを投与した。その結果、生残率は、無投与区が0.9～2.1%に対して投与区が2.6～4.6%となり、アルテミア投与については再検討する必要がある。

表1 平成8 ハマフエフキ種苗生産結果

生産回次	回	1	2	3	4	5
卵收容日	月日	5月11日	5月28日	5月29日	6月4日	6月5日
收容卵数	千粒	3,900	2,470	4,064	3,328	3,648
ふ化日	月日	5月12日	5月29日	5月30日	6月5日	6月6日
ふ化率	%	59.1	79.8	85.1	97.8	66.6
開始時水槽	m ³ , 槽	50, 1	50, 1	45, 1	45, 1	45, 1
仔魚收容数	千尾	2,306	1,970	3,457	3,247	2,430
開始密度	千尾/m ³	46.1	39.4	76.8	72.2	54.0
飼育日数	日間	156	42	42	44	43
取揚全長範囲	mm	62-96	17.2-33.8	15.9-30.4	15.5-31.1	18.0-32.6
取揚平均全長	mm	81.0	25.0	24.7	23.6	24.5
取揚尾数	千尾	9	42	50	30	41
生残率(ふ化から)%	%	0.003	2.1	1.4	0.9	1.7
分槽時全長	mm	20	-	-	-	-
使用水槽総数	m ³ , 槽	100, 1	-	-	-	-
取揚密度	千尾/m ³	0.09	0.84	1.11	0.67	0.91
飼育水温	°C	23.6-28.1	24.0-29.2	22.7-28.8	24.3-29.2	24.7-29.5

*1 臨任職員

表1 平成8 ハマフエフキ種苗生産結果つづき

生産回次	回	6	7	合計
卵收容日	月日	6月19日	6月22日	5/11-6/22
收容卵数	千粒	2,624	3,104	23,138
ふ化日	月日	6月20日	6月23日	5/12-6/23
ふ化率	%	40.6	77.3	72.7
開始時水槽	m ³ , 槽	45, 1	45, 1	50, 2; 45, 5
仔魚收容数	千尾	1,000	2,400	16,810
開始密度	千尾/m ³	22.2	53.3	22.2-76.8
飼育日数	日間	44	41	41-156
取揚全長範囲	mm	17.2-35.0	17.6-31.3	
取揚平均全長	mm	26.2	25.4	23.6-81.0
取揚尾数	千尾	46	62	280
生残率(ふ化から)%	%	4.6	2.6	0.9-4.6(20mmサイズまで)
分槽時全長	mm	-	-	
使用水槽総数	m ³ , 槽	-	-	
取揚密度	千尾/m ³	1.02	1.38	0.009-1.38
飼育水温	°C	27.1-29.3	27.5-29.8	22.7-29.5